

職人から社長へ

3代目手作りの良さ継承

伊豆の国 メガネのタニグチ

谷口 夏季 さん(30)



眼鏡を制作する夏季さん＝伊豆の国市田京のメガネのタニグチ

日本のショップでおよそ唯一というメタルフレーム眼鏡を手作りしている「メガネのタニグチ」(伊豆の国市田京)の社長に、女性では珍しい眼鏡職人の谷口夏季さん(30)が就任した。「長く使ってもらったためにも少しでも快適な眼鏡を提供していきたい」と意欲的だ。

同店は、1947年にしている。

祖父・久二さん(故人) 晴俊さんのDNAが始めた。昨年10月に創業者を引き継ぐ夏季さんは、業70周年を迎えたのを機に、3代目の夏季さんが社長に就いた。眼鏡職人で前社長の父・晴俊さん(67)も引き続き同店で働き、夏季さんをサポート

ファッション性重視を提案

「父が作った眼鏡は、形にならなかつた。振りが悪かった」と振り返る。大学卒業後は家業を継ぐか、医療の道に進むか迷ったという、1年間、視能訓練士として働きながら若い女性なら

眼鏡で働き「眼鏡の方をの視点を、新しい息吹やりたい」と7年前に同店に戻ってきた。メタルフレームは丈夫で劣化しにくく、修理しやすいのが特徴。子ども

の弱視治療用として十数年前に、晴俊さんが開発した。金属が値上がりする中、料金は当時のまま。永く保証付きで、顔の成長に合わせ左右のレンズをつなぐブリッジの付け

替えなどのメンテナンスを無償で行っている。

夏季さんは本場・福井の職人から技術を学ぶなどしながら、これまでに200〜300本の眼鏡を製作してきた。1本作るのにかかる時間はおよそ1週間。「父が作った

と想っている客もいるのが悩み」と笑う。金属が硬いため、力加減や切断が大変だという。

医療従事の経験も生かしながら若い女性なら